

業務フロー・コスト分析等の結果に基づく業務改善事例

独立行政法人名	独立行政法人酒類総合研究所	部課室等名	研究企画知財部門
対象事業名	酒類の高度な分析・鑑定	実施期間	平成26年度
分析対象とした事務区分	酒類の高度な分析・鑑定		
分析実施の背景 (問題意識等)	<p>当研究所においては、酒類に関する高度な分析・鑑定及び研究を行っている。</p> <p>研究所内において分析・鑑定を行う場合は、高価で専門的な装置を必要とするうえに、適正な分析結果を得るためには分析の内容ごとに、分析技術を習得する必要がある。分析技術の習得には多大な時間を要するため、分析点数が少ない場合等は外部委託の方が効率的であることがある。</p>		
分析により明らかになった点	<p>研究及び調査業務において必要となる分析のうち、一部の分析（CE-TOF MS分析、安定同位体比分析、麹菌ゲノム解析、微生物叢解析、DNA情報解析、原料タンパク質解析、焼酎粕の栄養成分等解析、清酒粕の栄養成分等解析、GC-MSメタボローム分析）については、業務フローやコストの分析を行った結果、外部委託の方が効率的であることが明らかとなった。</p>		
分析結果に基づき講じた改善措置	<p>上記の分析については外部委託を行った。</p>		
その効果	<p>分析の外部委託を実施することにより、高価な装置を導入することなく、効率的に業務を実施できた。</p>		